テルさんの日々

熊本市現代美術館のキュレーターだったときに、
藏座江美さんはハンセン病元患者のアート作品と出会った。
悲しみの陰に芽吹いた「生きるよろこび」に心打たれた。
その思いを、藏座さんが青森の松丘保養園で、
遺品の写真の中から見つけた一人の女性、
成瀬テルさんの日々からしのぶ。

※本誌62ページの「アートが、目ざめる」でもハンセン病元患者のアート作品を紹介しています。

満開の桜の下でポーズを取る二一歳の成瀬テルさん(一九五一年)。着ているドレスはシーツで作ったもの。